

ボランティア活動や 学生の自主活動を支援しつつ さらなる教育改革を推進したい

2

011年4月以来、本学は東日本震災の被災地支援活動を継続しています。「KU東北ボランティア駅伝」と銘打ち、学生を乗せたバスを右手県遠野市へと週1〜2便走らせ、これまでに2200人超の学生が参加する他大学に例を見ないスケールとなりました。これからグローバルに活躍する人たちにはぜひ、リアリティをもつて日本を語ってほしい。そのためには自らの目で被災地を見て、自らの耳で被災者の声を聴いてほしい。大学のそんな願いも込めた支援活動です。

参加学生の多くは、戻ると顔つきが変わっています。想像を絶するリアリティに圧倒され、「友だちが少ない」「就職が不安」といった悩みがいかに小さなものであるかを知れるようです。殻が破れて新しい自分が現れ、活動的になる学生が数多く生まれています。

本学は「真の実学」を追求する大学です。実学の「実」とは「現実」であり、それを見つめたうえで「学び」を行う。すると体験と理論がうまく絡み合い、単なる座学で得た学びより格段に身につくようになります。そうした理想を追い求めるためにも、ボランティア活動などの「正課外教育」をいっそう充実させたいと考えています。

ボランティアのみならず、最近の学生を見て感心するのは、「大学に貢献したい」と考える学生が増えていること。ここ1、2年、学生の自主的な活動のなかで、新生生のさまざまな相談に乗る「アスクカウンター」や、就職内定者が後輩の質問に答える「ピアサポーター」などの仕組みが誕生しました。大学にも同様の仕組みがありますが、学生各々が助け合い、高め合う活動を私は大変頼もしく感じています。こうした活動も大いに支援していきます。

教育活動の活性化のために、優れた教員を表彰する教育貢献表彰制度を2年前に導入しました。全学で数名の「グッドティーチャー」、1名の「ベストティーチャー」を決定、表彰しています。日本でこうした制度をもつ大学はあまりないようですが、本学はさらなる教育力向上を使命と考えています。「ゼミ・卒研の神大」「語学の神大」といった高い評価もいただき、きめ細かな教育を行ってきた自負はありますが、時代の要請を鑑みれば、いっそうの精進が必要であることも自覚しています。

グローバル化という点では、2年前の「国際センター」の設置、海外協定校の拡充など、国際交流の基盤は整いつつあります。今後は学部の正規カリキュラムに留学プログラムを盛り込んだり、英語で学ぶ科目を増やすなど、グローバル教育を全学にわたって飛躍的に進めることを計画しています。

神奈川大学
学長
石積勝



【学長プロフィール】いづみ・まさる●1950年生まれ。上智大学外国語学部卒業。トロント大学政治学修士。丸紅株式会社、国際連合本部事務局職員などを経て、1989年神奈川大学経営学部助教授、92年教授。2013年4月より現職。

【大学プロフィール】1928年創立。横浜、湘南ひらつかの2キャンパスに、法学部、経済学部、経営学部、外国語学部、人間科学部、理学部、工学部の7学部20学科2プログラムを擁する総合大学。